

藤女子大学紀要, 第 46 号, 第 II 部: 129-140, 平成 21 年.
Bull. Fuji Women's University, No. 46, Ser. II: 129-140. 2009.

「保育のあり方」について保護者への 周知・理解をどのように進めるか

— 保育現場の課題として —

真 鍋 尚 美

1. はじめに

平成 21 年 4 月から保育所に対して告示化された改定保育所保育指針が適用となる。

今回の改定では保育所は子どもの最善の利益を考慮し健全な心身の発達を育む生活の場として子どもの育ちに応じた保育を行うということが求められている。それと同時に、保育現場には自園の保育を言語化し、それぞれで行われている保育という営みの中で「どのように子どもの最善の利益を目指しているのか」「どのように現在を最も良く生きることができるようにしているのか」「どのように望ましい未来を作り出す力の基礎を培っていくのか」ということを対外的に周知することが求められている。

現在まで、対外的な周知ということについてどのように行うかについては各園の状況によりその程度・内容・方法などは一任されてきている。保育所という子どもたちが長時間過ごす場の特徴から「保護者への報告、連絡、伝達」は日々の子どもの状況や、何を行ったかといった日常の事柄などについて、個々の子どもの姿やクラス集団の姿を中心に行われていることが多い。

だが、保育所として子どもたちに対しどのような理念をもって保育に臨み、0 歳から就学までの保育所生活を通して何を育てたいと考えて保育を行っているか、そのためにどのように保育に理念を反映させているかということまでの周知には到っていない現状が自園を含めて多々あると考える。

保育所という職場全体での保育理念の共通理解を図ることが行えた時に、十分な共感に基づいた理解と課題意識などによってそれぞれの保育者に育まれた保育観は子どもと向き合う時、保護者に

対する時などに自然に現れると考える。

しかし、現在の保育者の状況、保護者の状況を考える時に共通言語としての日本語の状況が「考えを伝える、考えを受け取る」ツールとして十分に機能するだけの素地が双方に育っているかという点において個人差があまりにも大きいという実態が大きな課題となっていると考える。

また、保育の周知という時には「成育歴・生育環境・家族状況・生活状況・価値観」等がどんどん多様化している保護者やあるいは地域の子育て家庭に対して一つの提示した事柄が同じように理解されるということは、十分な説明を行う努力をしてもかなり難しいことであると実感している。

示された課題は大きいと実感しているが、実践の場では毎日が課題との直面と、その解決に向けての取り組みの連続である。保育現場として「保育を語る」というあたりまえ事柄をしっかりと行えることで、子どもに対しての専門職としての役割が担えると考えている。

そこで、実際に保育の周知ということで取り組んできたまこと保育所の取り組みを例に「保育のあり方」の保護者に対する周知・理解への課題を探ってみたいと考える。

2. 保育状況の背景

2-1 制度の変化

就学前の子ども達の育ちへの対応として、幼稚園は学校教育法における学校として位置づけられ、保育所は保育士が国家資格となり、さらに保育指針が告示化され、認定子ども園という中間的な施設の体系も示されて日本における乳幼児の生活の養護及び教育を担う場所として保育所・認定子ども園・幼稚園の制度的な位置づけの一応の形が示

されてきている。

しかしその実態としては、幼稚園では少子化を反映し定員を割るところが現れ、保育所は大都市圏では受け入れ定員を増やす努力をしているにもかかわらず、待機児童が恒常的にいる対策として待機児童ゼロ作戦などが政策として出されている。同じ保育所でも過疎地では入所児童数が減り定員割れになったり、保育士の不足が深刻であったり、市町村などの財政的な問題から公立幼稚園・保育所の私立法人への移管や認定子ども園として統廃合したりするなど地域による差やひずみも現れている。

また、認定こども園は制度的に改善の途中であり設置数も地域によりかなりの差が生じている。

2-2 子育ての変化

このような制度等の変化が必要となったのは、「社会環境」「家族構成」「乳幼児の生活を担う保護者の生活に対する意識」「女性の労働に対する意識」「一家庭における収入構造の変化」など多様な要因があると思われる。それと共に子育ての担い手である女性には育つ中で培ってきた生活イメージ・生活の充足感への志向があり、実際に24時間・年中無休の子育て生活の中で直面する実態とのギャップによる負担感の大きさが何よりも大きいのではないと思われる。

その社会の実態の中で生まれてきた期待や要望が子どもの育ちに対して果たすべき公的責任の担い手としての保育現場の社会的位置づけを変え、担う役割や課せられる責任内容を大きく変化させてきていると考える。

家庭での子育てでは、情報として「子どもの育ちをトータルに捉えて」ではなく種々様々な生活の部分（例えば知的面・栄養面等々）についてこのようにすると良いということが取り上げられている。また、それらの情報収集は情報誌・インターネット等様々な媒体があり入手は容易であり量も膨大だが、質については色々な角度からの精査がされていないものも多く、受け手に情報の取捨選択の力量が求められている。どの情報も一見正しそうであるが「優秀な子どもの育て方」「将来ドロップアウトしないために今はこれしかない」となるとかなり危うい点が散見される。子どもに対して良かれと思う気持ちを刺激し、不安を伴わせるような情報もある中で、惑わされず育児に対して

のポリシーを持って子育てを行う方はそう多くないかもしれない。

反対に、まったくそのような情報に興味も感心ももたず、自分の生活スタイルで、子どもの成長に対しての見通しなどほとんど無い状況で子育てをする姿もあり、子育ての状況は一律には捉えられない現状である。

2-3 保育現場の課題

以上のように制度も、子育て状況も混沌としていく中で保育の現場には容赦なく沢山の課題が突きつけられてきている。

しかし、その状況に対応できるだけ現場の保育士等に対しての時間的余裕や研修体制が整った訳でもなく、人的余裕を持てるような財政的な基盤が示されたわけでもなく、ただ保育現場が行わなければならないという課題だけが取沙汰されているというのが現在の状況である。

それだけに、ともすると準備や実態が整わないまま性急に形だけを求め、保育現場を混乱に陥れるなど保育の姿を見失うことにもなりかねないと危惧を抱かされることも多い。

2-4 保育指針の改訂

今回改定された保育指針では「第1章総則の2 保育所の役割」の(3)において「保育所は（中略）入所する子どもの保護者に対する支援及び地域の子育て家庭に対する支援等を行う役割を担うものである。」また、(4)において「保育所における保育士は（中略）子どもを保育するとともに、子どもの保護者に対する保育に関する指導を行うものである。」と規程されている。

同じく「第1章総則の4 保育所の社会的責任」の(2)で「保育所は、地域社会との交流や連携を図り、保護者や地域社会に、当該保育所が行う保育の内容を適切に説明するよう努めなければならない。」、(3)で「保育所は、入所する子ども等の個人情報適切に取り扱うとともに、保護者の苦情などに対し、その解決を図るよう努めなければならない。」という努力義務が課されている。

これは、保育所が就学前の乳幼児の養護と教育を担う公的な責任が明確になったことに付随して保育に対しての説明責任 (accountability) が課され、各保育所において保育に対しての「根拠 (evidence) 一何故そうしているのか」を伝えるという

応答性の構築が求められていると考える。

また、「第6章 保護者に対する支援」の章では「1 保育所における保護者に対する支援の基本」「2 保育所に入所している子どもの保護者に対する支援」「3 地域における子育て支援」の3項から具体的な支援のイメージが示されているが2-(2)で「保護者に対し、保育所における子どもの様子や日々の保育の意図などを説明し、保護者との相互理解を図るように努めること」と責任の形が示されて保育現場における取り組みが求められている。

2-5 保育現場の行うべきこと

以上のように保育を取り巻く環境や状況は様々であったとしても子どもを育てる営みは将来の社会を支える基礎であることを肝に銘じなくてはならない。上記保育指針の中で示されているように様々な考えや状況である各家庭と共に子どもの養育を行うそれぞれの保育現場（幼稚園・保育所）が持てる力をしっかりと全職員で再確認した上で、自園の出来ること・行いたいこと・大切にしたいことなどを「保育のあり方を発信する」という形で行うことが求められている。

保護者の共感や理解を得ながら保育の実施を行うことが何よりも乳幼児期の子ども達の成長にとって安定した環境となり得るのではないかと考える。

3. 保育現場における「保育内容の共通理解」の現状と問題点

実際の幼稚園・保育所において長年行っている保育（教育・養護）内容は今までそれぞれの園（所）に任されており、その保育内容が就学前の乳幼児に対してふさわしいものであるかどうかについての検討は十分に行われているのであろうか。

公立幼稚園であれば幼児教育の研究を担う責任が課されていることから園内・園外共に検討・検証の場を持つことが求められている。

私立幼稚園の場合、地区毎の研究団体主催の研究会で実践発表はあるが、教育要領に基づく保育内容の検討・検証を各園でどの程度行っているかについて実態は様々であり、差が大きいと思われる。ただ、保育内容については各園ごとの特色の

ある保育が園児獲得に繋がるため知育重視型～自然体験型まで実態は様々であり、各園ごとの地域に向けた保育の特色のアナウンスは盛んにされている。

保育所の場合、保育実施内容は認可保育所であれば監査対象ともなっているが、現在の保育指針はガイドラインであるので保育理念・方針・保育内容・方法については各園に一任されているといえる。公立園が複数ある場合、長期の指導計画については検討を行って標準を作っているところもあるが、それも各自治体の実態に任されている現状である。そして社会に向けてのアナウンスはホームページの作成も含めこれからの課題となっている所も多い。

以上のように、「保育内容の共通理解・検討・実施」についての実態は様々である。それは平成21年度を迎え幼稚園が学校に位置づけられ保育指針が告示化されても保育現場で行えることの状況が一挙に変わるのはなかなか難しい面があると思われる。

さらに、保育所関係では制度上の変更が取りざたされており、制度が変更になることがどのように運営上の変更・運営資金の削減に繋がるかという問題に直結しているので、安定して次年度以降の保育を検討しようとする余裕が無いために保育内容の検討が現場を担う保育士に丸投げになっている所もある。また、保育所の現状では保育時間が長く、時差勤務であるために落ち着いて保育内容を検討するための時間を作ったり研修したりすることがむずかしいという実態の園もあるのが現状である。

4. まこと保育所での「保育のあり方」の保護者に対する説明の取り組み

現場の実態は以上のように様々であることを踏まえつつ、「保育のあり方」をどのように発信していくかについて自園の取り組みを例として取り上げてみたいと考える。

まこと保育所でも上記3. で記述した内容と同じ悩みを抱えているが、できるだけ「保育のあり方」を伝えるということに対して保育士全員で検討する機会を持つようにしてきた。

保育士全員で共通理解するためには保育終了後の会議となり終了が夜10時頃となることが多く、

次の日の朝7時～の勤務の保育士達にとって負担が大きいと実感しているが、職員の意識に支えられて検討を行っている所である。

4-1 懇談の機会をとらえて

保護者に対しては、年度当初にクラス懇談を毎年行っているが、その際に3歳以上の保護者に対して子どもの育ちに関する保育所の考え方を伝えたいと平成16年度から全体懇談の場を設けてきた。それまでは年齢ごとでその年齢の育ちの特徴・年間の行事・保育所生活の約束事などを中心に懇談を行ってきたが、保護者の子育てに対する考え方や生活スタイルの多様化を肌で感じるが増え、保育所に対しての期待や要望が保護者によって異なることを受けて、少しでも保育所が子どもの育ちに対してどのように考えているのかを伝えることが必要と判断して開始した。欠席される方もいることから、できるだけ懇談内容を全員に周知することを目指して資料を作成し、それを基におこなってきた。

16年度、17年度は子どもの生活についての考え方を知らせたいと資料を作成し、18年度はまこと保育所の保育目標の中に含まれている内容について読み取ってもらえるための資料を作成、20年度は保育所に在園している乳幼児期に育みたい事柄を「心情・意欲・態度」の視点から考えて懇談の資料として作成し、前年度までの資料も含め保護者に向けて説明を行ってきた。¹⁾

クラス懇談終了後の全体懇談であり、時間も6時15～30分から30～45分程度ということもあり十分な「保育のあり方」の周知とまでは至らないことは承知していたが、少しでも保育についての理解を得て納得して通園していただくきっかけとなればと考えて行ってきた。十分な説明や質疑を行うことはできていなかったが、19年度までは周知のために改めて自園の保育についての説明会を開催するなどの方法はとらなかった。

懇談は仕事を持つ保護者にとって保育終了後に行う方が負担感は少ないが、実態としては仕事内容も様々であるために降所の時間の差は大きい。個人懇談等はその実態をうまく利用できるが、クラス懇談・全体懇談では開催時間を5時30分からとしているが「仕事の都合で遅れる(時間が早い)」と思われる方から「帰るのが遅くなる(時間が遅い)」と感じられる方と様々である。

懇談会自体の参加人数は開始時間には5割程度で終了時に7～8割程度になることが多い。欠席者には後日機会を捉えて懇談を担当した保育士から懇談内容の伝達を行っているが、質問等がなければ全体懇談の内容にまで踏み込むことはほとんどなく、資料を渡して「これについて話がありました。」と伝える程度になることが多い現状である。

4-2 園に対する苦情や要望の機会を捉えて

20年度になり、5～6月に行われた個人懇談の際に保護者の方から頂いたご意見や要望に対して内容の共通理解を図り、生活の中での改善等を話し合った上で保護者への周知を行いたいと考え、全員に文書を作成して6月30日に配布した。²⁾

その配布した文書を読んで、保育所に対しての疑問を伝えたくなったのか7月3日に封書が届き「上靴」「運動会の開催場所」「職員」の3点についての意見が記載されていた。³⁾

封書が届いたことへの戸惑いや3点目の「職員」の部分では当事者となる職員に動揺がみられたが、まずは一つ一つのことにについて落ち着いて対応するべく、その内容に対しての検討を保育士全員で行い、それまでに検討済みであった上靴の件については対応を職員で再確認し共通理解の上で「上靴」に対しての検討報告を配布した。⁴⁾

「運動会」については後日、当園における行事の対しての考え方を園の方針として示した上で、方針の中で考えられるいくつかの方法を提示し無記名のアンケートを実施した。アンケート回収後(回収数44、総数比・約76%)にその結果をまとめ、その結果を受けて全体懇談で再度園の方針として例年通り行うことに決定したことを伝えた。⁵⁾

今まで、まこと保育所においてこのような方法で問題を全体に投げかけたことはなかったが、園行事という性格上、保護者の方全員に知っておいて頂きたい内容でもあり、行事のたびに所長から口頭で繰り返し伝えるようにしていた事柄を文書にして配布したことで反響は大きかったといえる。アンケートに自由記述欄を設けたことで、それぞれの保護者が色々良いことも疑問なことも忌憚なく記入していただけたようであった。回収は手製のポストであったが手渡しで提出され、その際に「書くのは苦手だから……」と口頭で思いを伝えて頂いた方も多かった。

アンケート配布の際に、配布後保護者の方から職員に対し色々なアプローチがあることが予測されたので職員と対応の共通理解を図り、皆（職員及び保護者全員）で考える機会を頂いたことを素直にありがたく思っていることを伝えるようにしてあれこれと詮索を生まないような配慮を行った。

自由記述についてどのように取り扱うか検討したが、多様な意見に触れていただきたと考え、編集等はせず、頂いたご意見をそのまま転載し配布した。運動会に関係あるもの、そうではないものに分け、それ以外の意見・質問等にはできるだけ回答する姿勢で全体懇談を開催した。⁶⁾

全体懇談の出席は28名、約50%の保護者の方が参加され、出席された方は自由記述に記載していただけた方が多かったように感じられた。結果への興味と園庭開催に反対の意見が出た場合、賛成の意見を述べるために参加したと力を込めていた方もいたが、アンケートの結果を受け園としての姿勢をはっきりと打ち出したことで「運動会」についての意見は無く、おおむね納得して頂けたのではないかと考えている。

その他の意見の中の回答は「即答できること・了承を頂いたこと・説明の上、後日検討結果を配布したこと」の3パターンとなった。⁷⁾

その中で「職員の子どもの受け入れ」に関しては話題に上がるまで「気付かなかった・気にならない」という方もいることから、「そのことが気になる、扱いに差があるのでは」という個人の思いについて「そのようなことはない」と納得がいただけたかどうかは保護者の方々の受け取りや保育所に対しての信頼感の問題であることと捉えた。100%の了解ではないことを踏まえつつ、現状通りどの子に対してもしっかりと責任を持ってかわる気持ちで保育を堂々としていくことが一番納得を得る方法ではないかと職員間で話し合った。職員の気持ちを受け止めながらもそのことについては基本的な考え方を再度伝えるのみにした。

全体懇談の後、欠席された方にも使用した資料に報告を添えて全家庭に配布し周知を図った。

この結果を受け運動会を実施した訳だが、今回の運動会では保護者の方たちがとても積極的に参加・応援を行っていただけたように思う。前年度まで、保護者がビデオやカメラの撮影で忙しいため拍手や応援が少なく感じられて、始める前に応援についてをお願いをしていた状況と比べると、

明らかに保護者の方たちの意識が異なっていたと感じられた。その姿勢はご意見を頂いたことを保護者に周知して、その機会に保育所における行事の「保育のあり方」を考えていただいた結果の変化ではないかと考えている。

運動会の終了後に再度簡単な自由記述のみのアンケートを実施した。その回答数は23件（約39%）と少なかったが、その結果は肯定的な意見のみであったので「このような意見を〇件頂戴いたしました。」と集計結果のみ周知した。

5. 保育所における保育課程の役割

前項で保育のあり方の周知を自園の例を取り上げて触れてきたが、その際に強く感じられたことは、自分たちが行っている保育に対しての言語化の大切さである。4月の全体懇談の際に使用していた資料の一部「保育目標について」や「子どもたちに育みたい気持ちや姿について」をアンケート後の懇談の中でも再度使用したが、4月の段階よりもより理解して聞くことができたとその後の感想をいただいた。

保育目標の周知については改定された保育指針の中で保育課程に位置付けることが求められている。保育所における保育に対し「子どもが現在を最も良く生き、望ましい未来をつくり出す力の基礎を培う」という目標が定められている。

各保育所においては保育目標、保育方針を盛り込み、地域の実態・子どもの育ち等を踏まえ長期の見通しをもって保育所生活で総合的に展開される保育というものを読み取れるよう作成しなくてはならないとある。

今まではなかった、保育課程という考え方はモデルが無いだけに一見非常に難解そうであり、どのように作成するのか保育現場の悩みとなっているが、保育課程はすべての指導計画の基であると考え、保育課程とは各保育所の「保育のあり方」が示されているものという考え方ができるのではないと思う。

今回の取り組みを通して、今後各保育所の保育課程の中に「保育のあり方」が示されていることで個々の保育所における「保育」の根底となるものや各園独自の取り組みの説明ができ、その内容をいろいろな機会を通じて保護者や一般社会に対して周知を図っていけるのではないかと感じた。

そのためにも保育課程の作成に際しては、職員がその作成に携わり何を盛り込み、どのように表記していくかについて十分な検討を行うと共に、作成後は内容について年度ごとに共通理解を図り、実際の保育の検証を行うことが求められる。作成した保育課程はそれぞれの保育所の保育のバックボーンとなると共に、保育の自己評価の基準となってくると考える。

6. 今後の課題

「どのような機会にどの程度のことを伝えていくのが良いのか」ということや、さらにその取り組みの中でどのように保護者との双方向の応答性のある関係を培っていくことが良いのかが現在の検討課題であり、そのための考え方の基礎となる保育課程の作成も現在の大きな課題である。

ただ、今年度の取り組みを通じて、保育所が日ごろの保育活動の中で保護者に向けて日々発信しているつもりの「保育のあり方」が園としての方針や考えに基づいていたとしても、どこかでそのことについて再確認ができる場が必要であると認識した。通常の「お便り」等は保護者によって読む・読まないに差があり、日々の活動について毎日知らせていても、保育の背景となる「あり方」への考え方を保護者が読み取るのは難しいといえる。

また、保護者に説明をするときには、その言葉の理解が難しいものであったり、いわゆる保育業界における通説を語ったものであったりするより、等身大の保育現場の保育から自分達の言葉で発信することが何よりも大切であると感じている。

もうひとつの検討課題としては「社会と保護者に対する説明責任」のうちの「社会」に対する周知の部分である。

社会への公表の手段としてはインターネットを利用したホームページの作成ということが代表的である。現在の時点で園要覧として情報の更新を行わない程度のホームページを作成することは可能だが、どのように活用したいのか、運用上の作成費・維持管理費等の問題、運用管理の担当など整理されていないことが多く当園では作成には至っていない。ただ、モバイルを使つての保育所情報検索に対応するものとして厚生労働省のi-子育てネットを利用し、表記できる内容をできる

だけ詳細に入力し、十分とは言えないが保育所の情報を得られるようにしている。

現在、それ以上の情報発信に関しては躊躇するところも多い。パソコン、携帯電話等のモバイルの時代が始まってまだ間もないが、急激な普及に対応した利用にあたっての規範や倫理的なモデルも示されないまま、どんどん社会全体がその利便性に対しての依存性を高めている。情報の発信だけではなく、双方向の機能を持っているだけに意図しない状況が起きて、管理者の責任が問われるケースも多々起きている。発信だけでなく、どのようにして相互理解のためのツールとしていくかが課題である。

7. まとめ

今回「保育のあり方」の周知という点に絞って、自分の園の取り組みの状況を一例として取り上げてみたが、この点においての一般例ではないことは十分承知している。

保育界において、就学前の乳幼児の生活がどのような内容で、どのように経験や活動を遊びを通じて積み重ねていくことが望ましいかについても保育の標準というものが大変曖昧な状態であるということを保育現場にいるからこそ深く認識している。幼児教育の義務教育化が取り沙汰されたり、保育所と幼稚園の教育部分の整合性が教育要領・保育指針においてははかられたりしているが、各園の自主的な取り組みに任されてきた経過から実体としては千差万別な状態であるといわざるを得ないだろう。

乳幼児の生活と望ましい成長の保障を担うべく動き出していることを評価しつつも、課題とどのように向き合い、保護者と子どもの成長を担う両輪となっていくか、現場の努力が何よりも求められる状況である。経営者と現場の保育者が共に同じ理想をもって歩みを進めていけるような時代の背景や後押しとなるような援助・保障は今のところ大変難しい状況にあると考えている。

ただ、後押しを待っていただいても思われない。自分のできるところから、少しでも良い方向への歩みを生み出していけるような努力が、現場には求められている。

保育現場における保育の状況も多様である。もちろん子どもに対しての最善の利益を考えること

が何よりも大切であるが、多様な状況の子どもと保護者に対して保育の形態を「これしかない」と限定してしまうことは保育の幅をせばめ、そこで生活しづらい子どもをつくり出してしまうと考える。特に保育所としての福祉的機能を大切にした「保育のあり方」を考えた時、求められるのは多様な子ども・保護者と共に歩む「インクルーシブな保育」ではないかと考え、その考え方を社会に周知していくことも保育所の一つの役割ではないかと考える。

また、これからの保育者（保育士・幼稚園教諭）には保育を語ることのできるコミュニケーションの能力、言語力、そして多様な状況を受け入れられる柔軟性と応答性、そして問題が生じた時に解決に至るプロセスをポジティブに続けていける粘り強さ、専門職集団としてチームワークが行える協調性をもっていることなどが今後ますます求められ、その素地を身につけることが大切になってくるのではないかと考えている。

〈注〉

- 1) 「資料1～4」全体懇談用資料、保護者向けに作成
資料1－生活リズムについて
資料2－子どもの肯定感について
資料3－まこと保育所の保育目標について
資料4－まこと保育所の生活で大切に考え行っている保育の要素と保育方法についてとその保育（生活）の中で育みたい気持ちや姿について
- 2) 「資料5～6」個人懇談時の要望・質問に対しての対応
資料5－職員間の話合いの記録
資料6－資料5の話合いを受けて作成した要望・質問への保護者への回答
- 3) 資料7－匿名の保護者からの要望等の書面
- 4) 資料8－上靴に関する要望等への回答
- 5) 「資料9～11」運動会に関する要望に対しての園としての方針説明とアンケート、および回収結果
資料9－運動会に関する園の方針の説明及び方法の選択肢の提示
資料10－運動会実施方法についてのアンケート
資料11－アンケート回収結果
- 6) 資料12－アンケート自由記述の一部(前半のみ)
- 7) 資料13－全体懇談時に回答できなかった要望に対しての回答

引用

改定保育所保育指針

《資料 1》

元気に大きく育つために！No.1

平成16年 4月

さて、今年は新年度になった機会に保育所でとても大事に考えていることをあらかじめお知らせして、保育所やご自分の家での生活についても考えていただきたいと思っています。

年度当初の態勢やまことと便りでお知らせしてある通り、まこと保育所の登所時間は通常の場合「9時20分」までです。それぞれのご家庭の事情があるので遅いと思う方も、早いと思う方もいらっしゃると思います。連絡が9時 20 分までは給食の関係ですが、登所時間を決めているのは子どもの生活のリズムのためです。

保育所では 2、3 歳～6 歳の子ども達の時期を『生命の力が充実してきて、その後の少年期や青年期にグリーンと成長するための基礎を心と体が作る時期』と考えています。植物にたとえたと双葉が四葉になりその植物の時節を持った本葉がでるところです。養分は多めですが多すぎても少なすぎてもだめ、きちんと昼と夜の温度差や日照時間があって適度な湿気と太陽光が必要で、ここで丈夫に育つことがその植物の生命力を左右します。

幼児も基本の基本を丈夫に育てるためには環境がものをいう時期です。大人に見守られ安定している中で、日中に十分に体を使って活動し、活動する事でおなかがいっぱいバランスの良い食事をおいしく食べ、体を使った疲れは十分な休息をとって癒す。(体は寝ている間に成長するそうです。)体を使う事が脳への刺激になり、頭の働きと体の働きが共鳴してさらに上手に体が使えるようになり、心と体がバランスよく成長する。そんな生活が子どもの成長にとって最高の環境と考えます。

朝からあくびでごろごろ・午前中より夕方方が元気・体を使っていないのでお腹がすかないから食べる意欲がない、そんなふうにはリズムを崩すのは本当に簡単です。大人の生活につき合えたらあつという間です。反対にリズムを作るためには大人の「まこと」や工夫が必要で、子どもには大人と子どもの違いをきちんと理解させなくてはなりません。

いま、色々な少年・青年期の問題が浮き彫りになり、幼児期の子どもの成長や育ちに必要なのが改めて取り上げられています。幼児期の成長に必要な要素は早期の知育教育ではないのです。わかってきたのはヒトは生物として健康に育たなければならないと言うことです。幼児期に必要な教育とは生命力・心と体の双方へのたくましさ育てることです。それが育たないとその後の教育が成り立たないことに気づいてきているのです。

小学校は子どもの成長に一番適している朝型のリズムで成り立っています。保育所は就学前の子ども達の生活の場です。保育所で大人の生活のリズムを尊重して夜型になるのを目をつぶって、小学生になったとたん「さあ、朝型ですよ」というのは大人のおがままです。学習に意欲がもてない、学校に行きたくない子どもには育てないですね。

子どもを取り巻く大人として、親として子どもが健康に育って欲しいと願う方、少し努力して子どもの生活リズムを作りませんか？登所時間の「9 時 20 分」は子どもにとって決して早い時間ではないと思います。3歳以上の子ども達なら「9 時」でもいいかもしれません。その分少し早く寝る事も大事です。家庭の事情も勤務時間も様々なのは十分理解しております。それでも、子ども達の健康な成長を促せる生活リズムの大事さを一緒に考えて行きたいと思っています。

《資料 2》

元気に大きく育つために！No.2

平成17年 4月

◎ 子どもを「認める」と「ほめる」と

どちらも子どもに対して大人が行なうことです。ちょっと似ているけどどう思われますか。

まこと保育所で大事にしているのは「認める」ということです。認めるといっても何でもいつでも「いよ、いよ、いよ」という「許可する」という意味ではありません。

子どもが自分の行動や存在を「ちょっとがんばってみた」「ちょっとわたし(ぼく)かっこいいかも」「いままではできなかったけど、できた！」「一番になりましたけど〇〇ちゃんにゆずった」とか大人から見ればほんの些細な当たり前の事ですけど、本人にすると「認められた」と思うような時に、ちょうど良いくらいに「加減で〇〇をするの見てたよ」「がんばったね」「よかったね」「がまんしたんだね」「すごいね」とくその子らしさを認めるということとを大事にしています。

他の子との比較ではなく、その子の基準で考えてうーんと認めて欲しい時なのか、きりげなく認めて欲しいのか、その場でなのか、あとでなのか、色々考えて判断してその子が成長したことを一緒に喜ぶような気持ちでかかわるようにしています。

自分から認めて欲しいと伝えられる子も、自分からは伝えられない子も心の中が色々な感じで揺れたときに、その揺れを良いとか悪いとか言うのではなく「揺れたね」と気づいてくれる人がいることにほっときたらと思っています。

それにたいして「ほめる」とは良く取り上げられますね。「子どもを伸ばすほめる子育て」なんて育児本のコピーに良くありますね。ほめる時には「すごい」「えらいねー」「じょうずだねー」「たすかったよー」「ありがと」「良い子だね」という言葉が代表的でしょうか。確かに、子どもにとっては心地よい言葉かもしれません。でも、私は大人ですら大人の作為を感じてしまいます。ほめられる基準は大人にあって大人の判断や価値観で認められる様な事が「ほめられる」ように感じます。みなさんはいかがですか。

ほめられる事で子どもは嬉しいからもっとがんばる、もっとほめられようとする、そこをまたほめる。なんだか、子どもにとっては大変です。そして大人の基準ですら最初よりもっと良くなっていくことが求められます。同じ事では大人ははめ続けなくてはけません。

例えば、トイレトレーニング中はトイレでおしっこが出たら「すごいねー」です。でも小学生では当たり前です。着替えも食事もしわゆる基本的な生活習慣というのはいずれは当たり前にならなくてはならない事です。「すごい」から「当たり前」までは連続しています。そういう子どもの成長に対して、大人がうまく使っているのが「ほめる」という事だと思のです。

ですから、その用途を広げすぎると「ほめられるからやる(やってみる)」「だれもほめてくれないからやめたくない」なんて何でも自分の行動の基準を自分以外に求めてしまう子どもが多くなるでしょう。

「認める」と「ほめる」と、皆さんはどう思われますか。

《資料 3》

平成18年 4月

まこと保育所のめざす幼児の姿(保育目標)

◎ 心身ともに健やかで良く遊ぶ子

身体が健やかー 食事をしっかりと食べることができる。

生活リズムが整っている。

睡眠が十分取れている。

排泄のリズムが整っている。

心が健やかー 愛されている。

認められている。

意欲がある。

ストレスを受け止められる。

ストレスを消化できる。

良く遊ぶー 興味・関心がある。

遊びや発見がある。

遊びこめる。(集中できる)

挑戦できる。(失敗を恐れない)

◎ 集団の中で生き生きと活動し、仲間を大切にする子

集団の中で自分を発揮できる。(自分らしく過ごせる。自分を伝えられる)

集団の一員としての自覚がある。

集団を構成する仲間が好きになれる。(一緒に遊びたい)

仲間に好かれたと思う。

仲間の主張がわかる。

仲間の主張と自分の主張の折り合いをつけることができる。

人(気の合わない人)でも)の心を言葉や態度で傷つけないことをしない。

◎ 望ましい生活習慣を身につけた子

自分の生活に必要なこと(衣食住・清潔に関すること)が自分でできる。

自分の行動に対して責任を持つ。(責任の転嫁はしない)

社会のルールを守ることができる。

《資料 4》

3・4・5 歳

- ・ 集団での生活がベースになる。
- ・ 個々の心の成長を大切にすること。
- ・ 遊ぶ力を育てる。
- ・ 人とのかかわる力が育つように援助する。

一人一人の子ども達が年齢に応じて、成いは自分のもっている力に応じて保育所の生活を築めるように考えて行きたいと思っています。

◎一人一人の子ども達が楽しめるような保育を考える。

例えば・・・

- ・ [大・中・小の]
- ・ [同年齢・異年齢の]
- ・ [集団・小集団・個別で]
- ・ [広い空間・狭い空間・限られた空間で]
- ・ [自由に・ルールを守って・時には我慢も]

「その子にとって今、必要なこと」を見極めたいと考えています。

◎乳幼児期の生活を通して育てたい意欲の基礎

- ・ 身の回りの出来事や新しい経験に対して興味や関心をもつ積極的な好奇心。
- ・ 友達と一緒に遊ぶことに対して楽しい、もつ遊びたいと思う気持ち。
- ・ 遊びや行動に自分(達)の考えを生かしたいという気持ち。
- ・ 自分で楽しさや楽しさを見出す力。
- ・ 健康な生活習慣に対する意欲。

子どもを大事にするってどんなこと

例えば・・・

- ・ 子どもの「あるがまま」を尊重する。
- ・ 子どもの「できること」を把握する。
- ・ 子どもの現段階の「成長に必要な力の準備の状況」を捉える。
- ・ 子どもの心から発せられる成長したい「意欲」を受け止め「思い」を共有する。
- ・ 子どもの成長に必要な援助を考える。

というようなこと・・・

◎乳幼児期の生活を通して育てたい心身の基礎

- ・ 自分の感情と素直に向き合える心。
- ・ 自分の心と体を大切に思う気持ち。
- ・ 友達の心と体を大切に思う気持ち。
- ・ 困難なことと向き合える心。
- ・ 新しい出来事と向き合える心。
- ・ 身の回りの自然に目を向けたり、変化を感じたりできる感性。

◎乳幼児期の生活を通して育てたい態度の基礎

- ・ 自分の思いや考えを伝えることができる。
- ・ 自分が困った時・理解できなかった時等に言葉にして人に聞くことができる。
- ・ 他人の話を集中して聞くことができる。
- ・ 友達の思いを受け入れることができる。
- ・ 落ち着いて座っていることができる。
- ・ 自分の安全や清潔に気を配ることができる。

《資料 5》

【保護者からの意見、要望に対する保育者間での話し合い】

個人懇談の時に園に対する意見や要望が出されたので、保育者全員で話し合いの時間を持ち（18 時頃から行）改善方法を検討する。

＊朝の玄関番を二人で行うことはできないか

- 朝の玄関番を二人にすることを検討したが、乳児の部屋や幼児の遊びに入る保育士の人数が減るため、手不足になる事が考えられる。
- ローテーション勤務のため、朝の保育士の人数を増やすと夕方の保育士の人数が不足するため、ローテーションを見直すことは難しい。

【結果】

- 玄関番の人数を二人にすることはできないが、遊びに入っている保育士の中から玄関番のサブ的な役割をする保育士を一人置くこととする（朝、夕共に）。

＊夕方、あかちゃん組の子ども達の移動時に保育士が立ち話をしているため、迎えに来ている保護者の邪魔になっていることがある

- あかちゃん組の子ども達をベビーベッドに乗せて 17 時をめぐりにべんぎん組の部屋に移動してきているが、べんぎん組の部屋で過ごしている子ども達がホールや園庭から帰ってきたばかりで落ち着いていないことが多く、あかちゃん組の子ども達は廊下で飼育物を見たり保育士と話をしたりして部屋が落ち着くのを待っていたため、迎えに来ている保護者の邪魔になっていた。

【結果】

- あかちゃん組の移動時間を早めたり遅らせたりする事を検討したが、子ども達の遊びの様子や保育士のローテーションも関係してくるので時間を変更する事は難しく、現状のまま今後も行う事となる。が、どんな場合でも保育士は周囲の状況をよくみて行動することを話し合う。

＊おむつなど持ってきてもらうものや提出物を期間内に持ってきているのに、繰り返し“まだですか？”と言われることがある

- 保育士間の伝達、確認漏れなので、チェック表を作成して保育士全員が目を通せるようにし、今まで以上に気を付けていく。

以上のことを話し合い、後日お便りを作成して全員の保護者に配布する。

《資料 6》

6 月の保育所生活についてのご相談・ご要望 状況に関する報告

まこと保育所 所長 真鍋尚美
第三者委員責任者 佐藤丈史

◎保育者の対応についてご意見を頂きました。

1. 朝の玄関番を2人で行うことはできないか？（玄関番が他の保護者と話していると伝達しない）

→ 勤務体制を検討してみましたが、勤務体制と整所している子どもの生活状況の両方を考慮した結果、現行どおり玄関番は1人で行う事になりました。
ただ、玄関番が電話中だったり、保護者の方と話をしたりしていても、「伝達できない」ということのないよう、玄関番の者ひとりに限らず、その場に出動している職員がきちんとお受けできるような体制を心掛けます。もし、職員が気付かずいた場合は、どうぞ遠慮なく声をおかけください。

2. 夕方、赤ちゃん組の子ども達の移動時に、ベビーベッドを押している保育者が廊下で別の保育者や保護者と立ち話をしたことで、お迎えラッシュと重なって通行困難になっている事がある。

→ 周囲の状況に対する気配りが足りず申し訳ありません。今後は職員一人一人が気を付けていきたいと思っています。

3. おむつ・タオル・ティッシュなど、期間内に持ってきて来ているのに何人かに持ってきて下さいと言われたり、または欠席などの後初めて聞いたのに、まだ用意されていませんか？という事を言われたりした事がある。

→ このことについては、こちらの伝達についての確認の漏れや伝達ミスです。くりかえし確認された保護者の方は不快な思いをされた事と思います。本当に申し訳ありません。今後はその様なことがない様、より一層職員間での連絡や報告を正確に行い、皆様にきちんと必要な事が伝わるように改善していきたいと思っています。

以上が、改善に向けてのご報告です。今回の3点は、個人懇談の時間にお話しいただいた件ですが、その様な機会だけでなく、お気づきの事がありましたら、なるべく早くお伝えいただけると幸いです。お伝えいただいた内容は保育所での生活がより良い状態になるように職員全体で検討し、速やかに対応できるようにしたいと考えております。これからも、皆様からの貴重なご意見は職員全体で大切に受け止め、より良い保育につながるように考えと共に、それぞれの職員が保護者の皆様の思いを安心して伝えて頂ける存在であるよう心掛けていきたいと思っていますので、よろしくをお願いします。

貴重なご意見ありがとうございました。

＊まこと保育所の保育士の勤務体制について＊

保育所は朝7:00～夕方19:00まで、早朝・延長保育を含めると12時間開所でお子さんをお預かりしています。朝から夕方まで全員の保育士で勤務する事は難しいため、10交代で時差勤務を行っています。全員の保育者が揃って子どもと関わっている時間は10:00～15:00です。研修等への参加も考慮し、時差勤務の時間帯に手不足にならないように体制には十分配慮しているつもりですが、なにかお気づきの点がございましたら遠慮なくお申し出ください。

また、朝や夕方の時間に事務所で仕事をしている保育士は事務時間や勤務時間外の時間を利用して自分の準備や残務を行っている事が多いです。お子さんの事についての相談や連絡事などがある場合はゆとりとお話を伺うこともできますので、遠慮せずにお声をかけください。

《資料 7》

まこと保育所 職員様

いつもお世話になりまして、誠にありがとうございます。

何点かお願いがありまして、失礼ながら匿名にてお手紙致します。

直接意見を聞くために意見箱等は設けないとのことですが、日中子供を預けている身としては、やはり直接は言いづらい親もおりますので匿名であること、どうぞお許し下さい。

一点は上靴のことです。

入所の際に「上靴と裸足の統一はしていない」と言われましたが、なぜ統一していないのかの理由は説明されていません。

実際にホールで遊んでいる時に、上靴の子に裸足の子が足を踏まれたというも聞いたことがあります。先生方も皆さん上靴を履いていらっしゃいますが、衛生面・安全面共に不安です。

懇談の際に床にすわっている親の横を先生方が靴で歩かれた時にはさすがにいい気持ちではしませんでした。

もう一点は運動会の場所についてです。

どうしてもせまい園庭では参観する親が場所を取れずに大変な思いをしています。年に一度の行事に、楽しみにしている祖父母を呼ぶことすら考えてしまいます。

なぜ他の保育園のように、公園や学校を借りられないのでしょうか。

お子さんを通わせている先生方が優先的に座りやすい場所を取ってしまう形になっているという声も、父母の間では挙がっています。

どうぞ、皆が楽しく安全に過ごせるよう、ご配慮頂きたいと思います。

父母より

《資料 8-1》

7月の保育所生活についてのご相談・ご要望 状況に関する報告

まこと保育所 所長 真鍋尚美
第三者委員 責任者 佐藤文史

- ◎ 保育所の生活に関してお手紙でお問い合わせを頂きました。一点は「上靴について」もう一点は「運動会について」です。保育所の全職員で確認には少々時間が必要のため、まずは職員間で共通の理解をはかりました「上靴について」のご返答をさせて頂きたいと思います。

【お問い合わせの内容】

《上靴と裸足の統一は何故されていないのでしょうか？ 実際にホールで裸足で遊んでいる子が、上靴を履いている子に足を踏まれたという話を聞いたことがあります。先生も皆さん上靴を履いてほしいですが、衛生面、安全面共に不安です。》

まず、保育所での上靴に関する捉え方が職員間で統一されていない部分があり、保護者の方に曖昧な対応をしていますというところをお詫言いたします。現在のような形にする時にも保育者全員で話し合っていたのですが、それから時間も経ち今回ご指摘頂いたことで改めて保育者全員でお伝えしてなかった「どうして？」の内容を再び基本から話し合いました。その上で今後の生活についても子ども達にどう過ごさせたいか、改めて確認致しましたのご報告致します。

『まこと保育所で何故、上靴を履いている子と、裸足で過ごしている子がいるのか？』

- ◎ まこと保育所にはいろいろな子ども達がいることを大切に。足の温かい子、足の冷たい子、足の機能訓練のために靴が必要な子、一時的に足の状態によって靴が必要な子、どの子も特別ではなく〇〇だから靴を履いている、履いていない理由と説明ができるところを大切にします。
- ◎ まこと保育所の床は冬は冷たく、足の温かい子や活発に遊んでいる時以外、裸足で過ごすことで体に負担がかかることが予想される。(必要な場所にホットカーペットを敷いているが、全体の改修は難しい)
- ◎ 年長児においては小学校へのつながりも考え、上靴を履いて過ごす経験も取り入れていく。全てを一緒にするというのは一見平等のように見えますが、保育所にいる子ども達は一人ひとりの違いです。「統一することで誰かが負担になったり、特別視されたりすることは望ましくない」と考えています。

では安全面ではどうなのでしょう。

保育所では小さなすり傷、ぶつけたなどであれば保護的な対応(薬を塗って、消毒したなど)をした場合、記録をつけています。足の怪我は裸足で遊んでいる時にぶつけたなどで、傷になった、爪が割れたなどは割合として時々ありますが、靴と裸足は原因となつて手当てが必要な大きな怪我につながったことはありません。もちろん普段の生活の中で靴を履いている子に足を踏まれたことが、全くないとは言えません。踏まれた子は驚かしたと思いますが、子ども達ならお互いに文句を言い合ったり、保育者に言ってもでなかったら足踏られた話があるというところにつながっているようです。生活や遊びの中で子ども達が自分で考えて、「今は靴を履こう」とこの場所は赤ちゃんといるから脱いだほうが良いなどと自分で覚

《資料 9-1》

平成 20 年 8 月 1 日

「運動会の会場についてのお問い合わせについて」

まこと保育所 所長 真鍋尚美
第三者委員 佐藤文史

先日、上靴の件と一緒に運動会の場所について、次のようなご意見を頂戴いたしました。
まず、上靴の件と同様に、日頃感じられていることをお伝え頂いたことに対して敬意と感謝をお伝えしたいと思います。ありがとうございます。

◎ ご意見の内容

《 どうしてもせまい園庭では参観する親が場所を取らずに大変な思いをしています。年に一度の行事に、楽しみにしている祖父母を呼ぶことも考えてしまいます。なぜ他の保育園のように、公園や学校を借りられないのでしょうか。 》

お問い合わせの内容が園の方針に関わることで、この機会に保育(行事)に対する園の方針について皆様にお知らせしたいと考えております。今まで保護者の皆様にきちんとお知らせする機会を持っていなかったことをまず初めにお詫言いたします。

また、この機会に皆様の品評などの意見を伺いたいと思ひ、最後にアンケートを載せてあります。中心は運動会開催の方向性についてですが、最後は自由記帳欄を設けてありますので、園生活の様々なことに対しての疑問等や普段感じられていることについてお聞かせ頂ければ幸いです。

アンケートの結果をまとめた後、園全体での懇談会を開催してその場で色々とお話しし、疑問にお答えしたることが出来ればと考えております。

4月に行った懇談の際に「平成20年度 主な行事の日程について」というプリントをお渡ししております。その中の懇談会・健康診断・避難訓練などを除いた子ども達を中心とする行事に対しては保育所として一貫したねらいを次のように考えております。

I まこと保育所の行事のねらい

- 1 子どものために行うものであること。
- 2 就学前の経験としてふさわしいものであること。
- 3 その取り組みを通して一人一人の子どもに育てたい(経験させたい)ことを考えて行うこと。
- 4 毎日の生活や遊びの積み重ねが生きる方法・内容であること。
- 5 一人一人の子ども達が意欲を持って自分の力で取組める内容を中心とすること。
- 6 行事そのものが目標や目的にならないこと。

II まこと保育所の保育の特色

まこと保育所には3ヵ月から就学前までのお子さんが通われています。保育所の特性として、同年齢であっても、保育所に入所した時期が異なるなどから、子ども達の経験は実に様々です。そして、保育所で毎日元気な過ごすためには、子ども達それぞれの身体や気持の状態に配慮しながら遊びを行うことが必要になります。

《資料 8-2》

つける姿が見られ、また、保育する上では遊びの内容によって子ども達と考えたり、保育者がルールを決めたりして皆が満足で遊ぶこともあります。特に大きい子が活発に動く遊び(例えばドッチボール、鬼ごっこなど)の時には統一しています。

衛生面に関してはどうでしょうか。

上靴と裸足の「裸足で歩く場所と履くもの」とイメージされる方がほとんどだと思います。学校では整校してから下校まで上靴で過ごしています。座ったり寝転がったりするような活動はないので床もあまりきれいではなく、トイレもスリッパに履き替えず上靴のまま行きます。ですから学校での上靴は整と不衛生なイメージを受けます。

保育所での上靴は、家庭のスリッパや室内履と同じようにそれ履汚れていない状態のものと考えています。ですから、

- ・ トイレは上靴を脱ぎスリッパに履き替えて入る場所としています。
- ・ 各部屋やホールでは、床に座ったり寝転がったりして遊ぶことが多いため、なるべく床面をきれいに保つため遊ぶ前にモップをかけ、食後は床拭きをしています。

どうしても夏場は窓や戸を開けていることが多いので、裸足で過ごしていると足の裏が汚れることもありすが、出来るだけ気持ちよく生活できるようにと心掛けています。

以上のことを含め、ご意見の内容も検討した上で、今後の生活の上で何点が改善致しましたのとお知らせ致します。

1. べんぎん組の部屋は、あかちゃん組の子ども達が朝夕の時間に利用するので、あかちゃん組の部屋と同様に靴を脱ぐようにする。
2. 夕方の遊びが園庭の場合、今まではべんぎん組の部屋に遊覧がいて、お迎え場所になっていたが、今後はべんぎん組の部屋を少しでもきれいに保つため、らっこ組の部屋に遊覧がいるようにして、子ども達を連れ戻した後にらっこ組のベンダから中に入るようにする。
3. 園舎内の清掃を今まで以上に心掛ける。

いろいろな子どもたちが一緒に生活するまこと保育所では、「生活の中での自由性を大切にしたい」「子どもが自分で考える、考えようとする力を育てたい」という基本の姿勢を崩さず、上靴に関しても今までどおりお子さんと保護者の方にお任せしようと思います。

皆が持ってきているから…ではなく、夏場は裸足で過ごして嫌なくらい靴を持ってこようなど、どのようにしたのか親としての意見も伝え、お子さんと相談して決めて頂きたいと思ひます。但し、園庭での遊びや散歩に行く時には靴下を履いていきますので、裸足で過ごしているお子さんに関しましては必ずカバンもしくは、着替え袋に靴下を入れておいて頂きたいと思ひます。

以上が上靴に関してのお問い合わせに対しての回答と改善についての報告です。運動会に関するご意見についてはもう少しお時間を頂きたいと思ひます。今回のこの報告の内容についてさらにご意見があるかもしれないと思ひますが、運動会の件についてのお便りの後、全体懇談会をもちたいと考えております。その折にどうぞご意見をお聞かせ下さい。

今回のご意見、ご要望は匿名で頂きました。今後何らか(良いことも、悪いことも)ございましたら、できれば直接お話し頂けると良いのですが、ご意見箱の内部設置はかえって人が気になるのではという意見もあり、お話しにくい場合は玄関の外で構いませんので、ご意見を頂きたいと思ひます。

貴重なご意見から、職員も皆で考え直す機会を頂いたことを感謝いたします。ありがとうございます。

《資料 9-2》

まこと保育所は、保育に関して目立った特色を打出してはいませんが、普段の保育の特徴についてアピールするとなれば『**一人一人の違いを尊重する。**』と『**就学前にその年齢なりに経験したほうが良い環境と一人一人がしっかりと向き合えるようにする。**』ことを目指しています。

子ども達が「自分と友達」それぞれの個性の違いや思いの違いを受け入れることを大切にしながら、集団生活の決まりやルールを守ることも大事にしています。

幼児期から個人と集団を大切にする気持を育てていくのが「自分大切に」「友達大切に」「社会性を身につける」という「人として大切な気持ち」が育ちにくいのではと考えています。

その考えと「運動会」といった行事と何の関係が？と思われるかもしれませんが、

でも、保育所に通っている時期の子ども達にとって運動会や発表会のような行事は「生まれてはじめて経験することが沢山ある出来事」です。そして、子ども達のもっている力量や経験はいろいろだけれど、毎日過ごしている園庭やホールで行うからこそ子ども達に育つこととなります。(下記①～⑥項目)

他の場所を借りることは簡単にはできません。ただ、まこと保育所は十分とは言えないけれど運動会を何とかなる園庭に恵まれています。「他の保育園のように、公園や学校を借りない」のは、保育のあり方として園庭で行うことを大切にしたいからです。他の場所を借り、行事の質が変わることで余分に負担が掛かってしまったり子ども達を増やしてしまことは避けたいと考えています。(下記⑦～⑩項目)

III 行事としての運動会のねらい

- (1・2歳児) ・運動会の雰囲気を楽しむ。 ・できるだけ(親と一緒に)参加し楽しむ。
- (3歳児) ・運動会に参加することを楽しむ。 ・親や友達と一緒に競技をすることを楽しむ。
- (4歳児) ・運動会で行う競技に意欲をもって参加する。 ・友達と一緒に運動会に楽しく参加する。
- (5歳児) ・運動会に対して、自分なりに目標をもち、意欲を持って参加する。 ・友達と力を合わせて競技を行うことを楽しむ。

IV 園庭で行う理由

- ① 園庭は毎日の遊びの積み重ねを行っている生活の場所である。
- ② 園庭は沢山の大人がいることで普段とちよつと違う雰囲気であっても、その子なりの力で過ごした今までの生活を通して「できるときにちよつと頑張る」ことができる。
- ③ いつもの場であることは、行事の展開に見通しを持つことができ、不安が少なくなり自分なりにできるように(自信をもって)取組むことができる。
- ④ 「特別な日はその日だけ」を大事にする。
(本番が2回以上あるような総練習は行わない)
- ⑤ 狭い園庭では、周りの人の表情がわかり、沢山の人の笑顔に接し、応援や拍手により認められ、いつもの場所であつて私ずかしいけど心地良い気持ち味わえる。」
- ⑥ 保護者の方も、身近でいろいろな年齢の子ども達の表情に触れることができ、自分の子どもの成長を感じたり、期待したり、いろいろなことを感じてもらふ良い機会である。

V 他の場所を借りるマイナス面をまとめると・・・

- A 普段の生活が行事に向け会場を移動しての特別な活動が多くなり、体力的・精神的に追いつかない子が出てくる。
- B 園行事というより保育士に自分が経験してきた「運動会というイメージ」が強くなり、練習がきつくなる。
- C なじみのない場所での集団行動は、決まりや規制が多くなり自分達で考えて行うことを難しくする。

《資料 9-3》

- D 先生の指示が多くなり、子どもが指示がないと行動できなくなることが出てくる。
 E 違う場所や空間では自分の力を発揮できにくい子どもが多い。
 F 観客席が遠くなり、声援が聞きにくく、自分の子どもしか見えなくなる。
 G 普段の生活の積み上げではなくするため、その子の本来の姿ではない状態が強くなり出す。

そんな理由から、今後も運動会は園庭で行うということを大切にしていきたいと考えています。
 小学校になったら広い場所で運動会を行います。中学校になったら別の場所で開催があります。その年齢に応じた責任も生まれます。大人になるまでの間に経験して欲しいことが発達に応じてあるほうが子どもにとって無理がなかったと思っています。

VI ただし、園庭が狭いのも事実です。

園庭で行うことについては前面の理由から了承を頂きたいと考えておりますが、その狭さを解消する取組みの方法はないかと考えました。

今年と昨年の家庭数を比較すると 60 家庭(19 年度)と 59 家庭(20 年度、7 月現在)と増えてはおりません。多分、今年も昨年と同じような観客数ではないかと予測されます。今までは、皆様にご協力を頂いて参加できる年齢の子ども達全員が一帯に会って行ってまいりました。

観客席の確保という点を考慮すると、方法として「年齢でミニ運動会と運動会に分けて実施する。」ということも考えられます。主に運動会に主体的に取組み、経験を重ねて欲しい 3・4・5 歳の子も達を中心にした本運動会(昼食あり)と 2 歳の子も達を中心にごっこ的なミニ運動会(昼食なし・午前中)の日を設定するという考え方があります。

前記⑥の項目に記した点が弱くなりますが会場については少し改善されるのではないかと思います。ご兄弟・姉妹がいらっしゃる方は両方に参加して頂きたいので、2 歳児さんの方はお弁当などの負担のない形式・時間で行うということが予想されます。(具体的にはまだ検討しておりません)

この案に対して、皆様のお考えを別紙アンケートにてお聞かせしたいと思います。

思ったより文が長くなってしまいました。申し訳ありません。ここまで読んでいただいてありがとうございます。

◎ もう一点、ご指摘がありました。

《お子さんを通していらっしゃる先生方が優先的に席取りやすいう場所をとってしまう形になっているという声も、父母の間では挙がっています。》

この件については、そのように保護者の方が感じることがあったこと自体、職員一同に配慮不足があったと反省しております。

当園で、職員の子も達が在籍しているのは、「自分の子どもを通わせたいと思う保育」を行いたいからです。自分の子どもに行いたいことを子ども達みんなに保障していきたいと考えています。

場所を優先的に確保しているように思われたのは、多分、親として遠慮なく場所を確保する姿があったためだと考えています。申し訳ありません。行事の時には、職員は親の立場になり休戦扱いで参加していることもあります。その際に、親としての本性？が出たとお許しください。もう一度、職員達と「はじめ」が持てるように話し合っていくと思います。

最後に、職員が行事の際に休暇を取るときには体制として手薄にならぬように旧職員他、お手伝いの方をお願いしています。そして職員ではありますが、同じ子育て中の母として子どもの病気に悩み、わがままと戦い、仕事と家事の両立に悩みながらの奮闘がりににもご声援いただけたと幸いです。

《資料 10》

H20.8

運動会実施方法についてのアンケート

まこと保育所 所長 真鍋 尚美

1 運動会の方法について

- ① 会場が狭いが今まで通り、全員一緒に行う方法が良い。
 ② 会場が狭いので、大きい子(3.4.5歳)と小さい子を分けて行う方法が良い。
 ③ どちらでも良い。
 ④ その他()

2 運動会の時間帯について

- ① 今まで通りで良い。(昼食をはさんで1:00位まで)
 ② 全員一緒に、種目を少なくして午前中に終わる方が良い。(昼食をなくす)
 ③ 2回に分け、大きい子(3.4.5歳)は昼食があった方が良い。
 ④ 2回に分け、どちらも昼食まで午前中に終わる方が良い。
 ⑤ どちらでも良い
 ⑥ その他()

3 その他

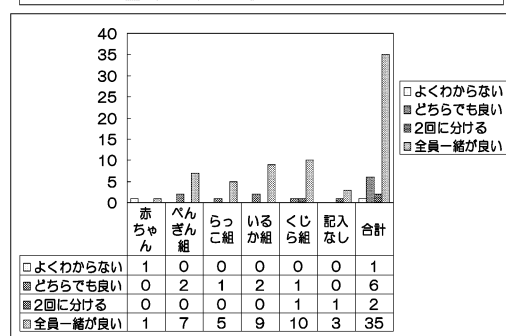
運動会のことも、それ以外に普段から思っているまこと保育所に対してのご意見・ご要望・ご質問・ご感想、園長・主任・先生達へのメッセージ。せっかくの機会ですのでどんなことでも結構です。このアンケートの集計後に全体懇談会を持ちます。ご意見、ご要望についてはその際にお話できるかと考えております。

◎ 差し支えなければ御記入下さい。(お子さんのクラス名を御記入いただけたら集計の参考になります。)

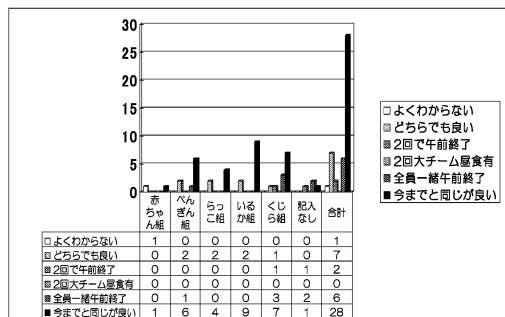
クラス名

《資料 11》

運動会の方法について



運動会の時間帯について



《資料 12-1》

運動会実施方法についてのアンケート 自由記述欄

(提出して頂いた順に載せています)

〔運動会に関して〕

- * 初めて運動会を観戦した時はこの園庭でできるのかな？と正直思いましたが、目の前で子ども達の動き回る姿を見ると、一人一人の表情や思ふつがいまで見て取れる、その臨場感、一体感が素晴らしいと思いました。園庭が狭いので場所や時間(回数)を変更して行方が良いのかと問われると、個人的には「NO」です。「狭い」というのは観戦する立場での考えで、果たして子ども達にとってはどうかと云えば違ふのではないかと思います。普段園庭では友達同士競い合ったり、遊ばしあったり、一緒に考えたりしながら遊んでいる場所でのいっしょに運動発表会のように考えると、自分の子以上に一人一人の意欲や成長を感じ取れて、非常に満足しているからです。兄弟の一人が小学校にあがり、学校の運動会というのを経験すると、広い中ではどうしても出番を気にし、我が子を探し、応援するのに必死にならざるを得ないの子の様子が目に入らなかったり、周りの方への配慮も不足しがちな事に気がきます。場所や時間を変えると、子ども達への負担が増えるばかりか先生方、兄弟のいる家族への負担が増え、そして前述のような我が家だけの運動会になってしまうのではという不安があります。働く親がどこまで安心して保育士の先生方に子どもを預けてもらえるかというのが保育所への共通する期待だと思いますが、そのうえで就学前までに仲間と一緒に何を経験していくのかという事を含めて十中期待に添えていただけており感謝いたします！「まことっ子」は自慢のひとです。今まで通り「まこと」らしさを続け、他の保育園にない良い部分を無くさないで下さい。応援しています。
- * 今のままでとても感謝しています。ありがとうございます一言に尽きます。これからも時間は長いですが頑張ってください。
- * せっかくの機会ですので、意見、質問をいくつか書かせていただきます。運動会については兄弟姉妹で世話になっている場合、2回に分けて参加することの負担もあるため、一度に終わるほうがいいと思います。場所についての説明やアンケートを見る限り他の場所でを行うという選択は全くないように思いますが、子ども達のことを思っていることはよくわかりますが、父母の意見をこのアンケートを機会に聞くことも必要だと思います。(2回に分けて、その代わが2回に増えるなどこの園庭は困る。)(この他の運動会以外のご意見、ご質問は、後記に載せてあります)
- * 場所についてはどんな方法をとっても公平、不公平の問題は出ると思います。場所を固定化せず、流動的に移動できる？ させる？ 体制作りもひとつの考え方だと思います。見たのいは結局自分の子だから…
- * 「ねらい」の通り、子どものための行事なのだから、子どもにしたら自分の観に観てもらいたいと思う。ただ、祖父母よふのは小学校でよいのでは？ 仕事の都合で来られない親、親が来ない子どももいるということや、親達も理解できるようにしてほしい。幼稚園と保育園はちがいのだし…
- * 今までの運動会が良いと思います。確かに会場は狭いけど先生達がどういう考えを持ってこのような形式にしたのかわかりました。親や園児の表情お互いはほっこり見え、声援も届きやすく子どもにとってはよい環境だと思います。親が会場の広さを気にしている親、子どもは気にしないと思いますし、お弁当を皆で食べて午後のお昼に雑巾拭きに楽しみたいという様なので、今までの形で今後もよろしく願っています。

《資料 12-2》

- * 会場が狭いのは確かですが、普段のそのまの子ども達の表情が見るので園庭での運動会に賛成です。 全員一斉の運動会も変えてほしくないです。(大きい子達が小さい子達に送る、一生懸命な声援に感動したので…)
- * 今年の春に入所して2人とも生まれて初めての運動会に参加します。初めてなのでできれば例年通りの運動会を経験させたいと思っています。いつも、先生方には細かな気配りなど本当に感じています。ありがとうございます。
- * 保育所の考えを知る事ができるよい機会でした。ただ、方針についても意見に対してもしアット、デメリット両方を提示するのが公平なやり方だと思います。物事には必ずアット、デメリットがあるのが常です。両面をきちんと提示されると尚、保護者も参考になります。
- * 運動会や上靴の件に関してですが、きちんと目的、理由があって実施されていることを知りました。これからは入園時等で(文章等でも)説明があると思います。
- * いつも子どもを見てくださってありがとうございます。
- * 運動会に関して、開始時刻を30分早くし、行い競技間の時間短縮と競技内容の検討をすると、12時半頃終了し昼食無しでも可能と思う。
- * 初めての年の運動会は確かに狭い所でやるよりも、広い所の方がいいと思います。運動会、発表会、卒園式など確かに少し狭いですが、それは大人の都合であって子ども達が自分達の練習したことをでできるか、楽しんでできるかが一番大切なことだと思います。私は今まで通りで何一つ不満はありません。卒園までもう少し、楽しい事、難しいと思う事、いっぱい経験してほしいと思うのでこれからもよろしくお願ひ致します。
- * 運動会は今まで通りがいいと思います。土曜日の休みは取りづらいですし、場所を広くすれば見えないとか車の問題など出てくるのでは…？ 母としては昼食なしで早く帰りたいのですが、子ども達は楽しいでしょうし今まで通りで。先生方が場所取りをしてるとは感じた事はありませんし、とってもいい保育園だねという話も聞いた事がありますので安心して頑張ってください。今まで通り楽しくのびのびした子ども達の姿を楽しみにしています。
- * 昼食をなくす事により荷物も減るのでその分履る場所にも余裕が出ると思います。子ども達が楽しめる行事であればいいので、親の都合で場所を変更する等、子ども達の負担になるような事はしてほくない。
- * 狭い園庭だから私達親の「ガランバ」が子に思くのではないのでしょうか。そんなに広い所でやめたい親は別の保育所に行けば良いのではないですか。おかしいと思います。星の不自由な子や運動が苦手な子は運動会を「広い」と感じていると思います。自分の意見を押し通すのではなくて、子どもも目録で見えてあげてほしいです。まことにモンスターっぽく感じます。もしくはクレーマーじゃないですか？ 親のこともなかなか大変感じます。どちらでも子どもが笑めればいい事なのにと私は思います。保育所が賑わるのはおかしいと思います。
- * 日々子ども達を保育してくださっていること、とても感謝しています。走り回る子達を安全に見守るのはとても難しい事でしょうし、多少の怪我は成長する上でしょうがないと思っています。私は「大きい子と小さい子が一緒に遊べる環境」を望んでいるので「まこと保育所」がとても気に入っています。運動会にしても他の行事にしても一緒に全員で楽しめればよいと感じています。

《資料 13》

平成 20 年 11 月 28 日

保護者の皆様へ

「年末年始のお休みの期間について」

札幌光明園 理事長 真鍋 登
まこと保育所 所 長 真鍋尚美

いよいよ 11 月も後二日を残すのみとなりました。街路樹もすっかり葉を落とし冬將軍の到来に備えている今日この頃ですね。師走は大人がバタバタと過ごす時期です。インフルエンザの噂も聞こえています。元気に過ごしたいですね。

さて、運動会会場の件についてのアンケートや懇談会の際、いろいろな御意見を頂いたのですがその中に年末年始のお休み期間について 5 日まで年始休業となっているのは納得がいけないという御意見がありました。

そのことについては、札幌市で定めている「札幌市私立認可保育所運営要綱 第 4 条」により 12 月 30 日～1 月 5 日が認可保育所としての休業期間として定められていることはお伝えいたしました。

ただ、それでも十分に納得いただけなかった方もいらっしゃることを受け、どう考えるべきかを法人として検討いたしました。その結果をお知らせしたいと思います。

結論としては、要綱として定められた期間を遵守することになりました。この結果に至る前に、例えば一日ずらし休業期間を 29 日から 4 日までにするということも検討いたしました。(休業期間を短くすることはせっかく保育所に認められている数少ないお休みできる権利なので、検討の対象にはなりませんでした)

そうした時に、保護者の方の勤務形態は様々であり、必ずしも皆さんが 28 日御用納めで 4 日御用始という休業期間ではなく、ずらしたことが必ずしも皆さんにとって都合が良くなるとは限らないこと、曜日等の関係は今年には都合が良くても、来年度、再来年度と状況が変わることを考えると、保護者の方全員にとって都合が良い状況の設定は難しいと考えられます。

以上のような論議を踏まえて、それならば初めから決められている休業期間を遵守するのが一番保育所として筋が通っていると考えました。ですから、簡便りに記載したように年末年始のお休みは変更してありません。

この決定に関してはいろいろな御意見があることを踏まえた上で、法人として方針を運営要綱に従うという決定を致しました。どうか、御納得頂くと共に御協力いただけるように重ねてお願い申し上げます。

《資料 14》

ご 報 告

運動会の後に保護者の皆様に「運動会に関するご意見・ご感想」をお願い致しましたところ、23 名の方からご返答を頂きました。ご協力ありがとうございます。

ほとんどの方から「今まで通りの運動会でよいと思う」「子どもの姿がよく見えた」「親からの応援の声がときどきうれしかった」というご感想を頂きました。その中で下記の 2 点についてご要望がありました。

- ◎ 午後の部に父母席の移動は特になくても良いのではないのでしょうか。
⇒ 以前、午後の時間帯のペラダ側はビデオ・カメラでの撮影の際に逆光になるので写しづらいという感想をお聞きしたことがあること、子ども達にとって午後の部は団体競技中心なので、子ども達の入退場がスムーズにできること、さらに父母の方の綱引きがとても見やすく、応援にも力が入るということからペラダを園児席にして、父母の方には移動をお願いしています。双方の利点を考えた上での移動になりましたのでご了承頂きたいと思っております。
- ◎ アナウンスの声が聞こえにくい。
⇒ 運動会ごっこが始まる頃にご近所には「運動会ではリズムの曲やアナウンスの音で耳障りなことがあると思います」がよろしくお願ひ致します」というお願ひを回覧して頂いております。さらに、できるだけスピーカーを内側に向けて設置し、園庭内では音が大きく聞こえるようにしていますが、それでもやはり当日に「音量が大きすぎる」との苦情の電話が今年も何回か入っているのが実情です。さらに工夫は致しますが聞こえにくいこともあるかと存じます。その時々に応じたボリューム調整を行うことをご了承ください。

11 月には発表会、3 月には卒園式があります。さらに狭い会場での実施ですが、ご協力をよろしくお願い致します。

10 月の「保育所の生活についてのご相談・ご要望」は
特にありませんでした。